

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番37	福山市立 曙 小学校
最終更新日	2019年(平成31年4月12日)	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体性
<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の取組から児童生徒の落ち着いた学校生活がうかがえる。 生まれ育った地元を愛し、仲間と意欲的に時代を担っていく若者を育成してほしい。 欠席児童生徒を少なくしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて授業や行事に取り組んでいるが、学びに向かう姿に課題がある。 地域に積極的に関わりを持ち、地域調べや地域行事に参加している。 長欠児童生徒の割合が高い。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	知識・技能, 思考力・判断力, 表現力, 自立・共生 自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒
		中学校区として統一した取組等	研究主題：自ら考え学ぶ授業の創造 ～自ら問い続け、伝え高め合う活動を通して～

III 自校

ミッション ㉠ ㉡ ㉢
㉠リエイティブ(突破力・発想力)で㉡ンダフル(不思議がいっぱいで素晴らしい)な児童の育成の図るため、㉢ノベーション(学びを問い直す)の推進

学校教育目標
夢と希望を燃やし続ける曙っ子の育成

現状
<p><児童生徒></p> <p>全国学力・標準学力テストが平均よりやや下回る状況が続いており、学力が定着しているとは考えられない。また、主体的対話的な学びのデザインにより問いたくなる状況作りに努め、問いの設定はできるようになったが、児童自らが課題解決計画をたて、本気で課題解決を楽しんでいるとは思えない。</p> <p>不登校児童の総欠席数は減少しているが、30日以上長期欠席者数は27名、その内、新規欠席者は9名となり、過去最低の状況となっている。</p> <p>体力テストの各項目が示す能力は向上しているが、体を動かす楽しさを感じている児童、継続して努力している児童は少ない。</p> <p><教職員></p> <p>退校時刻を意識した働き方、意識の変化が表れ、本校の退校時刻は市平均までになった。</p>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体性 知識・技能, 思考力・判断力, 表現力, 自立・共生			
めざす子ども像 (徒の姿)	育成する力(21世紀型スキル&倫理観)			
	主体性			
	知識・理解	思考力・判断力	表現力	自立・共生
	低学年	中学	高学年	
	知りたき情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。	目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで活用することができる。	多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結び付けて活用することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。
	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。
	自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。	自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。	自分の考えや意見を、三角ロジックを活用して説得することができるように伝えることができる。	自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。
	自分の考えを持つことができる。	相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。	相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。	相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。

研究	教科等	社会科・生活科・図画工作科
	主題・内容等	社会的事象を追究し、よりよい社会を考えようとする子どもの育成 ～自ら問い、考え、対話し合う授業づくりを通して～
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> 比較・関連等により問いたくなる状況により、自ら問いを生み出し、設定した課題解決に向けて計画をたて、考え、対話し合う授業(やりきる→つくりあげる、集中→夢中) 自分やグループの考えをシンキングツール等を活用してまとめ、対話し高めしていく授業(伝える・つなげる)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 曙 小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策	
1	学びの問い直し		見直し	本気で自ら問い、考え、対話し合う児童を育てる。	育成したい思考スキルを明確にした問いたくなる問題場面設定を工夫し、記録する。	単元末テストで、思考・表現の観点別得点を平均80点以上にする。								
					課題解決に向けた計画をたて、児童自ら夢中になって学ぶ単元を1つ以上実施する。	学びが楽しいと思える児童を、70%以上にする。								
1	長欠の未然防止		見直し	昨年より欠席数が減る長期欠席児童を増やす。	欠席状況の推移に留意し、家庭訪問による連携を密にし、組織的対応で粘り強く取組む。	長欠者数を前年度比20%減(27人→21人)、長欠者の欠席総数も前年度比20%減(-344日)にする。								
					個の興味関心に応じたカラフルーム運営により、長欠児童の未然防止をする。	新たなる長欠者数を、限りなく0にする。								
					多様な学びの場から、児童の見方や学び、壁となる学校の常識の問い直しに努める。	月1回の校内支援委員会を確実に実施し児童の実態交流や指導方針について協議する。								

1	教職員の働き方改革	新規	長時間勤務の改善に向けた時間管理の意識改革	毎週1回以上の定時退校日の確実実施 一人一人の業務改善の意識を高めるための時間管理の徹底と時間確保の工夫	時間外勤務時間が月45時間を超える教職員5%以下にする。 授業づくり・事務処理を行う時間が確保されると感じる教職員の割合を80%以上にする。								
---	-----------	----	-----------------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。